

フェニキア・カルタゴ研究会 第10回公開報告会

The Society for Phoenician and Punic Studies in Japan

お蔭様で公開報告会も今回で満10周年を迎える運びとなりました。第1部では「フェニキア・カルタゴ研究のこれまでとこれから」と題して、昨年につき卒業論文の発表や共同研究の成果の一端をご紹介します。さらに10周年を記念して、近世ヨーロッパ経済史がご専門のゲストを迎えてミニ講演会を開催いたします。第2部では2024年度の科研の成果報告会として、1月初めのチュニジアでの海外調査の成果を速報という形でお話しいたします。質問や全体討論の時間を設けて、登壇者とフロアやオンラインの皆様がともに参画し、対話ができる報告会を企画いたしました。是非、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム

13:30 開会の辞：趣旨説明 佐藤 育子（日本女子大学）

第1部 フェニキア・カルタゴ研究のこれまでとこれから

13:35 「帝政移行期ローマにおけるハンニバル・カルタゴ受容

ーリウウィウスの例から「悪徳」イメージの増大を考えるー 石踊 菜花（早稲田大学）

13:55 「フェニキア・カルタゴ史から考える開かれた古代地中海世界史研究

ー歴史学と歴史教育の対話を目指してー 丸小野 壮太（常磐大学高等学校） / 佐藤 育子

14:20 10周年記念ミニ講演会

「中間商人から見た世界史とフェニキア・カルタゴ人」 玉木 俊明（京都産業大学）

15:00 第1部質問・全体討論

15:20 休憩（10分）

第2部 2024年度チュニジア古代遺跡調査報告

15:30 「デジタル・ヒューマニティーズと古代史研究の協働に向けて

ーガマルトの農業ヴィラとウドナのモザイクを事例としてー

小川 潤（国立情報学研究所） / 佐藤 育子 / 瀧本 みわ（武蔵大学） / 大清水 裕（滋賀大学）

16:15 第2部質問・全体討論

司会・サポート 日野貴裕・中村えりな

日時：2025年3月9日（日）13:30～16:30 終了予定

場所：対面・オンライン併用のハイブリッド開催

対面会場：日本女子大学目白キャンパス 百年館5階506教室

最寄り駅 JR 目白駅 / 副都心線 雑司ヶ谷駅 / 有楽町線 護国寺駅

参加をご希望の方は、**3月8日（土）正午までに**
下記のフォームからお申込み下さい。

<https://forms.gle/jnLFX6mbgXFQwteUA>



ポエニ時代のガマルトの農業ヴィラの3Dモデル

2025年1月

作成 小川 潤

主催 フェニキア・カルタゴ研究会

共催 古代ローマ期北アフリカの農業に関する学際的研究 23K20508 基盤B 研究代表者 大清水 裕

古代西ユーラシア世界における知のネットワークとそのエージェンシー 24H00099 基盤A 研究代表者 周藤 芳幸

碑文テキストと実体空間情報のデータ構造化と接続に基づく碑文知識ベースの構築 24K15674 小川 潤

歴史教育における開かれた古代地中海世界史研究-「歴史総合」「世界史探究」授業開発 24H02438 丸小野 壮太